

製品名: c-Maf ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09077**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	41kDa

抗原情報

遺伝子名	MAF
別名	MAF; Transcription factor Maf; Proto-oncogene c-Maf; V-maf musculoaponeurotic fibrosarcoma oncogene homolog
遺伝子 ID	4094.0
SwissProt ID	O75444
免疫原	抗血清はヒト Maf 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 301-350

背景

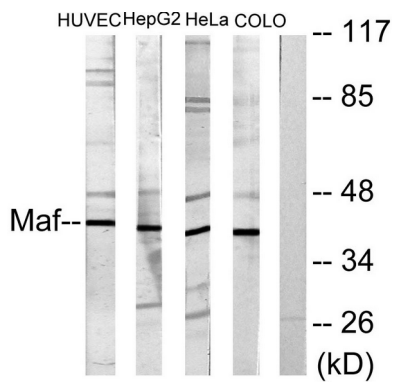
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、DNA 結合性ロイシンジッパー含有転写因子であり、ホモ二量体またはヘテロ二量体

として機能します。結合部位と結合パートナーに応じて、コードされるタンパク質は転写活性化因子または転写抑制因子となり得ます。このタンパク質は、胎児水晶体線維細胞の発達、T細胞のアポトーシス感受性の上昇、軟骨細胞の終末分化など、いくつかの細胞プロセスの調節に関与しています。この遺伝子の欠陥は、若年発症型粉粒体白内障および先天性青白内障4 (CCA4) の原因となります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2010年1月]疾患: 多発性骨髄腫 (MM) の一部の形態では、MAF に関連する染色体異常が認められます。IgH 遺伝子座との転座 t(14;16)(q32.3;q23)。,疾患: MAF の欠陥は、先天性青白内障4 (CCA4) [MIM:610202]の原因です。CCA4 は、常染色体優性先天性白内障 (ADCC) の一種です。青白内障は、同心円状の層状に周辺部に青みがかった白色の混濁を呈し、中心に放射状に病変がみられる場合もあります。胎児期や小児期に混濁が観察される場合もありますが、通常は成人期まで視力低下は軽度で、成人期には水晶体摘出が必要になります。、疾患: MAF の欠陥は、若年発症型粉粒体白内障[MIM:610202]の原因です。白内障は、水晶体またはその嚢が部分的または完全に混濁した眼球疾患で、視力障害や失明につながります。、機能:転写活性化因子または抑制因子として作用します。胚性水晶体線維細胞の発達に関与しています。転写共活性化因子 CREBBP および/または EP300 をクリスタリンプロモーターにリクルートし、水晶体線維細胞の分化中にクリスタリン遺伝子の上方制御を導きます。T ヘルパー 2 (Th2) 細胞で IL4 の発現を活性化します。MYB と相互作用し BCL2 の発現を減少させることで、T細胞のアポトーシス感受性を高めます。PAX6 とともに、G1 要素を介してグルカゴン遺伝子プロモーターを強力にトランス活性化します。内皮細胞で CD13 近位プロモーターの転写を活性化します。軟骨内骨の発達過程における、初期の軟骨細胞終末分化および肥大軟骨細胞の消失に関与する。L7 プロモーターの 5'-[GT]G[GC]N[GT]NCTCAGNN-3'配列に結合します。水晶体特異的 α -および β -クリスタリン遺伝子プロモーターの T-MARE (Maf 応答エレメント) 部位に結合します。グルカゴンプロモーターのエレメント G1 に結合します。内皮細胞の CD13 近位プロモーターの TGC モチーフ (非定型 Maf 応答エレメント) に隣接する AT リッチ領域に結合します (類似性による)。過剰発現すると、抗酸化応答エレメント (ARE) を介した転写を抑制します。細胞の状況に応じて、がん遺伝子または腫瘍抑制因子として関与します。解毒酵素遺伝子プロモーターの ARE 部位に結合します。、誘導:tert-ブチルヒドロキノン (t-BHQ) でアップレギュレーションされます。、PTM:セリンおよびスレオニン残基が GSK3 および MAPK13 によってリン酸化されます (可能性が高い)。リン酸化状態は、転写を刺激または阻害する働きをします。、PTM:ユビキチン化され、プロテアソームによる分解につながります。ユビキチン化はグルココルチコイドによって引き起こされます。、類似性:bZIP ファミリーに属します。、類似性:bZIP ファミリーに属します。Maf サブファミリーです。、類似性:1 つの bZIP ドメインを含みます。、サブユニット:ホモダイマー、または他の bHLH-Zip 転写因子とのヘテロダイマー。ホモダイマーまたはヘテロダイマーとして DNA に結合します。2つの MAF と 2つの USF2 からなるヘテロテトラマー相互作用は直接的である。MYB と相互作用する。通常の T細胞では相互作用は弱く、刺激を受けた T細胞では TCR の関与により相互作用が増加する。MYB と相互作用する。MYB と CD13 プロモーターと形成される三量体複合体は、分化シグナルに応じて制御される。USF2 と相互作用する。この相互作用は、L7 プロモーターにおける USF2 の DNA 結合活性を阻害する。CREBBP、EP300、ETS1 と相互作用する。、組織特異性: 内皮細胞で発現する。、

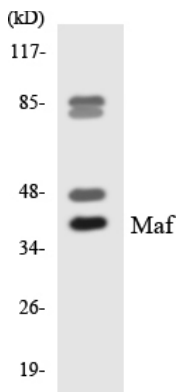
研究分野

-

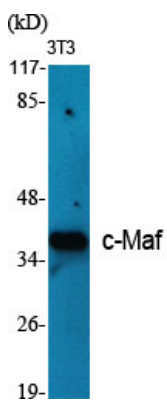
画像データ



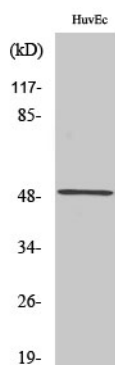
HUVEC、HepG2、HeLa、COLO205 細胞のライセートを Maf 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



Maf 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した c-Maf ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 500 に希釈した c-Maf ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析